

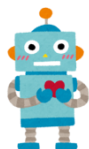
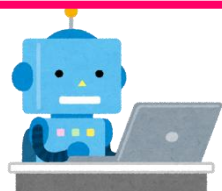
学校だより



戸塚小だより

川口市立戸塚小学校
令和7年1月8日
電話048(295)1810
児童数 683名

笑顔いっぱい 夢いっぱい 未来へはばたけ戸塚っ子



「ドラえもん」との未来へ



校長 林 奈緒美

子どもから大人まで、おそらく知らない人はいないでしょう。昭和・平成・令和と長きにわたって愛され続けている、藤子・F・不二雄氏による人気作品。少年のび太の悲惨な未来を変えるためにやって来た、未来の世界の子守用ネコ型ロボット「ドラえもん」。四次元ポケットからひみつ道具を取り出して、のび太の災難を一時的に助けるも、のび太は不適切に道具を使い続けて結局はしっぺ返しを食う—。

四次元ポケットがあったらなあ、ひみつ道具が使えたらなあ、何より自分のそばに、癒しのドラえもんがいてくれたらなあ…誰もが一度は願ったかもしれません。そんな夢が、それほど遠くない未来にどうやら実現するような…。

四月に開幕する大阪・関西万博において、人型スマートロボット「A I R E C (アイレック)」が披露されるといいます。アイレックのコンセプトは「一人に一台、一生寄り添う」—。アイレックにはA I (人工知能) が搭載されており、A I が人の動作を学習し様々なスキルを習得したとのこと。10年先には、人の指示を受けて洗濯物をたたんだりオムレツを作ったり、さらには人の体に機器を当て超音波検査を行い、病気やけががないかを調べる能力を身につけるといいます。その先は社会に溶け込み、指示がなくても好みの料理を作り掃除をし、住人の体調が悪く歩行が難しければ、車いすに乗せて病院へ付き添うのだとか…。アイレックの開発・研究に携わる早稲田大学次世代ロボット研究機構の菅野重樹教授は、アイレックが人と共生する社会を思い描きこう語っています。—「スマートフォンのように、生まれた時からロボットが家庭にいて人を支える未来が待っている」—

人型ロボットが一人に一台、生まれたときから当たり前のようにいて、生涯を共にする時代…。夢物語のようで正直実感が湧きません。でも、1970年の大阪万博で注目されたという「ワイヤレステレホン」や「動く歩道」は、今や社会に広く普及しました。人型ロボットが家事や介護を当たり前にする時代も夢ではなくなるのでしょうか。

では…人はどうなるのか？人口減や高齢化といった社会課題の克服に、A I ロボットの活躍は大きな期待が持てます。しかし、あらゆる面でA I が人によって変わって仕事をしていくならば、当然、今ある職業はA I のものとなり消えていきます。その仕事に携わることで磨いた人の技術、誇りと熱意はどこへ向かえばよいのでしょうか。子どもたちの将来には、どんな職業が選択でき、どんな新たなスキルが必要とされるのか？A I ロボットに思い描くのは、あくまで「共生」。取って代わられる「支配」ではありません。「ドラえもん」が愛されるのは、無機質なA I ではなく、人の思いに心を向けられるから。一緒に笑って泣いて、迷って悩んで…便利な道具ロボットではなく心通わせ合える人そのものであるから。

A I がドラえもんとなれる日が来るのかは謎です。でも、A I と共生するならば、人はより一層「人」として、対話・コミュニケーションを大切に理解し合い、心の通った判断ができるよう努めていく必要があります。A I 頼みだけの未来にしないために。